

知らせいただきたい。

川崎市がん検診センター所長、〒211川崎市中原区小杉町  
三一二六二電話 ○四四一七三三一一五六

(大村 敏郎)

### 湯島聖堂保存修理工事竣工

### 湯島聖堂創建三百年事業完成記念会

第二次世界大戦中、大成殿をはじめ諸施設が焼夷弾により破損され、昭和初期の復原工事以後補修もされなかつたので、昭和六十一年以来、斯文会を中心として保存修理工事が行われた。ようやく七年余の歳月をかけ、故伊東忠太東大教授が設計、建設された昔日の姿にもどることができた。

平成五年三月二十九日、大成殿において約百五十名余の関係者が集り、保存修理の完工と湯島聖堂創建三百年事業の式典を行った。

当日は風が強かつたが晴天に恵まれ、鳩山邦夫前文部大臣をはじめ、徳川家からも代表が出席された。本会からは蒲原宏理事長が祝意を表したが、本学会名誉会員でもあり東洋医学会の重鎮である矢数道明氏も参じられた。参加者には記念メダルが贈られた。式典後、斯文会館において伝統的な江戸木遣り、詩吟が披露された。神農廟のある森はこれを祝うごとく美しい木の芽が萌えていた。

(蒲原 宏)

### 「処士独嘯庵墓」再建について

江戸時代の中期の古医方の大家、永富独嘯庵は名著『漫遊雑記』により、病理解剖の必要性を説き、華岡青洲に乳癌手術のヒントを与える等、近代医学の種子を蒔いた天才的な医傑である。

大阪市天王寺区上之宮町四番地の曹洞宗蔵鷲庵にある「処士独嘯庵墓」は、昭和四十年の二百年忌追遠祭以降、墓碑の風化剝落が更に甚しくなり、現状を留めえぬ状態に至つた。

「処士独嘯庵墓」の再建事業の経過報告——

①蔵鷲庵に於て第一回会合 平成四年九月十五日

参会者、寺師睦宗、長門谷洋治、岡村芳樹、中嶋哲夫(独嘯庵九代目子孫)、蔵鷲庵住職磯田芳竜、棟近美代師(石浅石材店主)

お墓の現状について協議、二百年祭の主催者である寺師先生の発議により、明春三月彼岸までに再建する事を決定す。

②独嘯庵顕彰会の再発足

独嘯庵顕彰会

発起人 日本先哲医家の墓を守る会々長 寺師睦宗

日本医史学会理事長 蒲原 宏

東亜医学協会々々長 矢数道明

事務局 大阪市天王寺区上本町六―三―三二―四〇五

岡村クリニック

再建募金、一口五阡円、目標額三百万円

独嘯庵頭彰会趣意書千通を関係各方面に配布。

平成四年十月より平成五年四月迄に、全国の篤志家二百五十名より醵金総額三百四十万円に達した。

独嘯庵頭彰会は過去に二回発会した。百九十年祭(昭和三十三年)に下関市で結成、生家跡に永富独嘯庵先生頭彰碑を建立、木山芳朋著「独嘯庵」刊行)と二百年祭(大阪葺鷲庵に墓域確定、景德碑を建立)に際して結成された。

### ③新墓碑の再建と再建記念碑の作製

平成四年十一月より年末にかけて「処士独嘯庵墓」新墓碑を完成。岡山県赤坂産の花崗岩の新墓石に、富士川游先生の「訳解漫遊雑記」の巻頭に掲載してある「処士独嘯庵墓」の墓碑銘の拓本写真を墓石の原寸大に拡大したものでより復刻した。

平成五年一月より三月にかけて「処士独嘯庵墓」再建記念碑を作製、その冒頭の文句は、『訳解漫遊雑記』の表紙カバーの富士川先生の文章より採った。(天王寺区生玉町、石浅石材店作製)

「江戸時代中期に世に出られた永富独嘯庵先生は、我が國古医方の泰斗たるのみならず 経世の学に於いても一家の見を有し 且つ名利を超越したる済生活人の俊哲であった。

然るに才器多病 僅か三十有五歳にして明和三年未完の大器として浪華の地に没せられてから二百三十年 墓碑の風化剝落甚しく 茲に後学の有志 墓石を再建し その遺徳を永

く後世に伝えんとして此の碑文を草したり」

### 墓誌

墓碑建立 安永六年十一月

三十三回忌法要 寛政十年三月

富士川游先生参詣 明治二十五年春

百五十年忌(正五位追贈) 大正五年十二月

土肥慶蔵先生掃苔 大正十四年 春

百九十年忌法要 昭和三十二年四月

二百年忌(景德碑建立) 昭和四十年三月

平成五年三月五日

日本先哲医家の墓を守る会

日本医史学会

東亜医学協会

佐野光一 敬書

(墓誌に関しては、文献上に記してある事実のみを記した)

### ④新旧墓石の移転法要と再建記念碑の建立

平成五年二月十四日、葺鷲庵に於て移転法要

参列者は寺師睦宗、長門谷洋治、中嶋哲夫・心太郎父子、岡村芳樹、石浅石材店主、棟近美代師他五名

導師、磯田芳竜師により本堂及び墓前にて法要。旧墓石は、

本堂前の無縁墓々域に安置した。

同年二月十六日に、再建記念日を建立した。

⑤「処士独嘯庵墓」再建記念法要 平成五年三月二十日、彼

岸中日、曹洞宗明月林葺鷲庵に於て

参列者は寺師睦宗、蒲原宏、小石秀夫、小曾戸洋、宗田一、石原理年、芝哲夫、高島文一、土屋伊磋雄、渡辺武、安井広迪、岡村純、棟近美代師、永富家子孫の中嶋哲夫、心太郎、北出綾子、井上喜郎・幸子、以下五十三名出席

一、本堂及び墓前にて法要 導師 磯田芳竜  
二、本堂にて 司会 岡村芳樹

住職挨拶

経過報告

記念講演

事務局 岡村芳樹  
司会 長門谷洋治

小曾戸洋先生 「独嘯庵の遺墨について」

小石秀夫先生 「独嘯庵と小石元俊について」

寺師睦宗先生 「国手独嘯庵の人となりと業績について」

三、懇親会

永富家代表挨拶と子孫紹介、九代目子孫 中嶋哲夫

医史学会理事長蒲原宏先生以下順次挨拶

⑥独嘯庵顕彰会の今後の事業計画について

一、今後の年忌法要 一九九五年平成七年三月二百二十年祭

二〇一五年 二百五十年祭

二、蔵書庵に「独嘯庵文庫」設立（独嘯庵関係の文書を集める）

三、富士川游先生著『訳解漫遊雜記』の校訂復刻

四、東洋、良筑、独嘯庵とその弟子の子孫の調査

終りに、御後援頂きました医史学会の蒲原宏先生を始め、

皆様方に心から御礼申し上げます。

（独嘯庵顕彰会事務局 岡村 芳樹）

関西支部長に山中太木氏

日本医史学会関西支部では平成五年六月二十七日、京都府立医大での平成五年春季大会において、平成四年八月、藤野恒三郎支部長死去のあと空席となっていた支部長に山中太木氏（日本医史学会名誉会員）に、就任いただくことに決定し、同支部長よりご挨拶があった。なお事務局は従前どおりである。

日本医史学会関西支部（平成五）年春季大会

共催 京都医学史研究会

とき 一九九三年六月二十七日（日）午前九時半から

ところ 京都府立医科大学附属図書館ホール

（京都市上京区河原町通広小路西入）

開会のことば……………長門谷洋治

一、ハーヴェイとグリソン……………栗本 宗治（西 宮 市）

二、稻生恒軒・若水の墓誌銘について……………

……………杉立 義一（京 都 市）

三、医学講説人 饗庭東庵の事蹟……………

——饗庭家遺教素問難経記の研究……………

……………長野 仁（明治鍼灸大学）

四、Max Fieldigと脚気病因論……………